

令和4年度 第21回山形県障がい者スポーツ大会資料

1	第21回山形県障がい者スポーツ大会実施要綱	P. 1
2	実施競技・期日・会場等一覧	P. 5
3	各競技会場図	P. 6
4	陸上競技実施要領	P. 7
5	水泳競技実施要領	P. 15
6	アーチェリー競技実施要領	P. 20
7	卓球競技実施要領	P. 23
8	フライングディスク競技実施要領	P. 27
9	ボッチャ競技実施要領	P. 31
10	障がい区分	P. 36
11	障がい区分の解説	P. 37
12	競技・種目	P. 39
13	連絡員による安全確認の実施について	P. 43
14	申込み注意事項(各競技共通)	P. 44
15	第22回全国障害者スポーツ大会山形県選手団選手・役員選考方針	P. 45

別冊 個人競技参加申込書

○陸上競技	様式1-1
○水泳	様式1-2
○アーチェリー	様式1-3
○卓球	様式1-4
○フライングディスク	様式1-5
○ボッチャ	様式1-6
○安全管理及び感染防止のための体調管理報告書	様式1
○感染防止のための体調管理報告書【個人用】	様式2
○競技参加申込一覧	様式3



いちご一会とちぎ大会

夢を感動へ。感動を未来へ。2022

第21回山形県障がい者スポーツ大会実施要綱

1 目的

この大会は、障がい者がスポーツを通じて、自らの体力の維持増進及び社会への参加と相互の交流を促進させるとともに、県民の障がい者に対する理解の増進を図り、障がい者スポーツの一層の普及と競技力の向上、障がい者の自立の促進に寄与することを目的とする。

なお、今大会の競技別大会については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、第22回全国障害者スポーツ大会山形県選手団の選手を選考するための大会とする。このため、全国大会に出場を希望する選手を参加対象とする。

2 主催

山形県

山形県障がい者スポーツ協会

社会福祉法人 山形県身体障害者福祉協会

一般社団法人 山形県手をつなぐ育成会

山形県精神障がい者スポーツ推進協議会

3 主管（運営協力）

山形県障害者スポーツ指導者協議会

一般財団法人山形陸上競技協会、天童東村山陸上競技協会

山形市水泳連盟

山形市アーチェリー協会、山形県身体障害者アーチェリー協会

山形県卓球協会、山形県身体障害者卓球協会、天童クラブ、STT審判団

山形県障がい者フライングディスク協会

山形県レクリエーション協会

一般社団法人山形県バレーボール協会

山形県知的障害者福祉協会

4 実施競技・期日・会場等

別紙一覧表のとおり。

5 競技方法・表彰

各競技実施要領等による。

6 競技規則

令和4年度（公財）日本パラスポーツ協会編「全国障害者スポーツ大会競技規則」、各競技実施要領及び申合せ事項等を適用する。

7 参加資格

参加選手は、次の全ての条件を満たす者とする。

- (1) 令和4年4月1日現在、13歳以上の身体障がい者、知的障がい者及び精神障がい者（平成21年4月1日以前に生まれた者）
 - ① 身体障がい者は、身体障害者手帳の交付を受けた者。
 - ② 知的障がい者は、療育手帳の交付を受けた者。あるいは、その取得の対象に準ずる障がいのある者（児童相談所・知的障害者更生相談所長の判定の写し、医師の診断書、在籍又は卒業先の所属長による証明書）。
 - ③ 精神障がい者は、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者。あるいは、その取得の対象に準ずる障がいのある者（自立支援医療（精神通院）受給者証の写し）。
- (2) 申込時に本県に現住所を有する者。ただし、県内の学校に通学している者及び県内の施設に入所・通所している者も参加できるものとする。

8 参加制限

- (1) 競技別大会については、次のとおりとする。
 - ① 全国障害者スポーツ大会の予選会であるため、全国大会に出場を希望する選手が参加対象となる（各競技の参加申込書の「全国大会希望」に○を記した選手）。
 - ② 同じ日に複数の競技別大会が開催される場合、出場できるのはいずれか1つの大会のみとする。
 - ③ 出場可能種目数等は、大会ごとに別途定める。
- (2) レクリエーション大会等については、次のとおりとする。
 - ① 出場可能種目数等は、大会ごとに別途定める。
 - ② 地区単位で実施する「レクリエーションの集い」は、原則として当該地区内に在住又は所在する施設や学校等に所属する者を参加対象とする。

9 参加料

参加料は、原則として徴収しない。

ただし、各大会実施要領等で別に定める場合は、その定めによる。

10 新型コロナウイルス感染症予防のための留意事項

- (1) 選手及び引率者、介助者等の来場者については、各競技会2週間前から検温を行い、「感

染防止のための体調管理報告書〔様式2〕に記入し、「安全管理及び感染防止のための体調管理報告書〔様式1〕とともに大会当日受付に提出すること。当日の体温が37.5度以上の者、体調が悪そうに見える者、咳・鼻水等の症状が見られる者については、状況により入場を許可しません。

(2) 会場に入るすべての者は、検温と手指の消毒を行う。指定の場所以外でも手洗い、消毒に努めること。

(3) 運動時を除いてマスクを着用すること。なお、他人との距離が2m以上離れている場合や息苦しい場合は、短時間ならマスクをはずしてもよい。

(4) 原則として、無観客大会とする。

なお、引率者や介助者は、他者との距離を十分にとり、飛沫感染予防のため声援をしないこと。また、ハイタッチや握手などの交流は原則実施しないこと。

(5) 選手等が新型コロナウイルスを発症した場合は、主催者（山形県障がい者スポーツ協会）に連絡すること。

(6) 「感染防止のための体調管理報告書」は、1か月保管し、その後廃棄します。

なお、参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したと報告があった場合、または、開催地の保健所から該当資料の提出を求められた場合は、感染症法に従い当該保健所に必要書類を提出するものとする。

11 健康・安全管理

(1) 選手の健康・安全管理には、各人及び関係者が十分留意すること。

(2) 主催者においては、応急の処置を除き一切責任を負わない。ただし、レクリエーション大会及びレクリエーションの集いへの出場選手においては、主催者が加入する傷害保険の範囲内で対応する。

(3) 競技別大会への出場選手及び引率者等は、各人において傷害保険に加入すること。

4人以上：(財)スポーツ安全協会のスポーツ安全保険（通年対象）の加入を推奨する。

4人未満：「スポーツ安全保険個人」で検索し、加入を推奨する。

(4) 参加者の安全確保のため、大会ごとに危機管理を実施する（内容については大会ごとに定める）。

12 全国障害者スポーツ大会における山形県代表選手の選考・決定

(1) 選考・決定手順

① 主催者は、全国障害者スポーツ大会に出場する県代表選手の選手選考会を実施するとともに、選考するための資料を作成し、選考委員会に上程する。

② 選考委員会は、別途定める「山形県選手団選手・役員選考方針（個人競技）」（以下、「選考方針」という。）に基づき県代表候補選手を選考し、その結果を県に推薦する。

③ 県は、推薦された候補者について、競技規則及び選考方針に則して選考されているか等

を確認し、県代表選手を決定する。

- ④ 県代表に決定した場合は、令和4年7月中旬頃までに、県代表に決定した選手本人へ通知する。

(2) 留意事項

- ① 各種競技大会の参加申込みにあたり、全国大会への出場を希望した者が、出場した各種競技大会において入賞等の優秀な成績を収めた場合であっても、全国大会における各都道府県に割り当てられた出場選手枠等の都合により、必ずしも県代表選手として選考・決定されるものではない。
- ② 陸上競技、水泳及びフライングディスクにおいては、出場する競技につき2種目以上に出場しない者は、全国大会の選考対象としない。
- ③ 主催者等が実施する練習会や強化合宿等への参加を優先できない者は、全国大会の選考の対象としない。

13 出場申込み方法

各競技実施要領等を踏まえて、別添申込書に洩れなく記入の上、決められた期日に必着で事務局へ郵送又はメールにより申込むこと。FAXでの申込みは一切受け付けない。申込書の様式は、山形県障がい者スポーツ協会ホームページからダウンロードできる。

申込書記載の個人情報は、本大会及び全国障害者スポーツ大会関係業務のみに使用する。

14 その他

(1) 団体競技について

「精神バレーボール競技」は、東北・北海道ブロック大会に出場するための代表決定戦とする。

(2) 雨天時の対応

フライングディスク競技は、雨天の場合は山形県総合運動公園屋内多目的コートで開催する。

(3) 昼食弁当の斡旋について

参加者（選手、引率等）の昼食弁当の斡旋については、諸事情により中止とする。

▲▲▲*****

《大会事務局》 山形県障がい者スポーツ協会

〒990-2231 山形市大字大森 385番地

TEL: 023-686-4084 FAX: 023-686-3723

Email info@yamagata-adapted.jp

ホームページ <http://www.yamagata-adapted.jp/>

令和4年度 第21回山形県障がい者スポーツ大会 開催期日(案)
実施競技・期日・会場等一覧

	対 象			期 日	会 場
	身体	知的	精神		
総合開会式	○	○	○	6月11日(土)	山形県総合運動公園 第2運動広場 [雨天時:屋内多目的コート]

《競技別大会》※第22回全国障害者スポーツ大会出場選考会を兼ねる ※バレーボールは第23回全国大会に向けた予選会

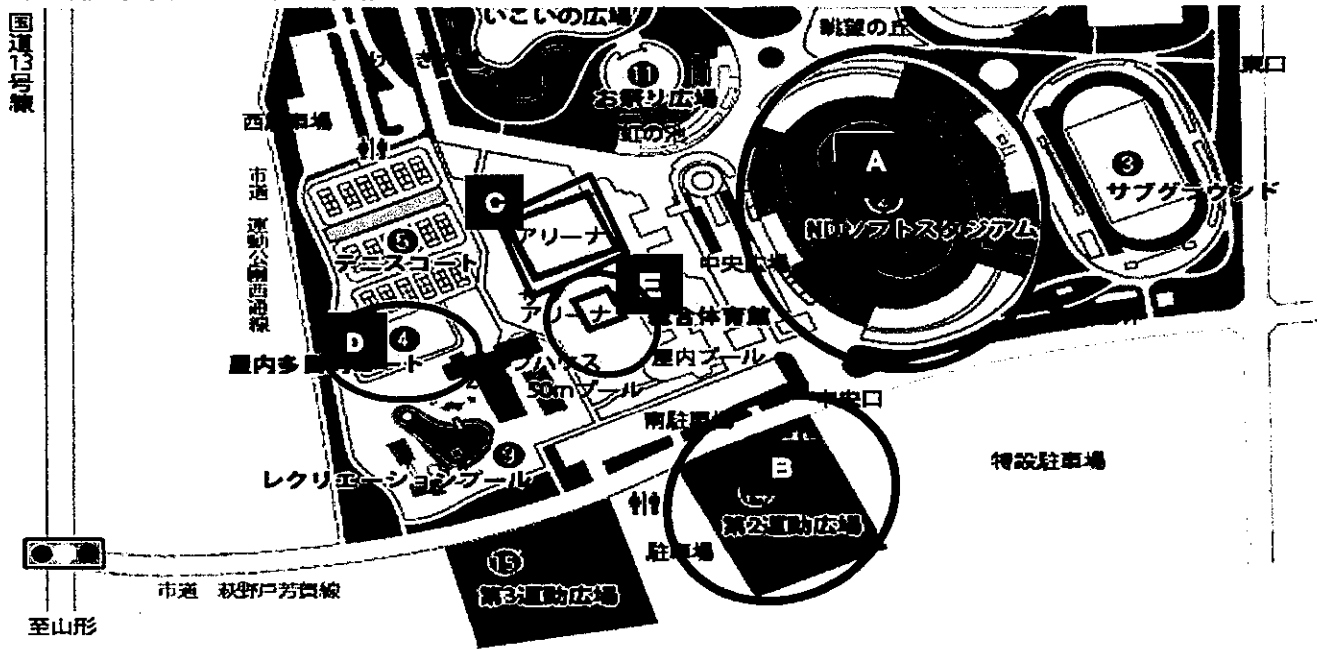
ボッチャ	○			5月15日(日)	山形市総合福祉センター 体育ホール(アリーナ)
卓 球	○	○	○	5月21日(土)	山形県総合運動公園 サブアリーナ
水 泳	○	○		5月22日(日)	山形市総合スポーツセンター 屋内プール
アーチェリー	○			5月29日(日)	山形市総合スポーツセンター 弓道場
陸上競技	○	○		6月4日(土)	山形県総合運動公園 (NDソフトスタジアム山形)
フライングディスク	○	○		6月11日(土)	山形県総合運動公園 第2運動広場 [雨天時:屋内多目的コート]
バレーボール(精神)			○	10月15日(土)	上山市体育文化センター (アリーナ)
全国大会合宿強化練習会	○	○	○	8月20日(土) 8月21日(日)	NDソフトスタジアム山形 サブグラウンド

《レクリエーション大会》

レクリエーション大会(身体)	○			10月15日(土)	山形県総合運動公園 (アリーナ)
レクリエーション大会(知的)		○		9月30日(金)	山形県総合運動公園 (屋内多目的コート)
村山地区レクリエーションの集い	○	○	○	月 日()未定	上山市南部体育館・
最上地区レクリエーションの集い	○	○	○	月 日()未定	戸沢村中央公民館・
置賜地区レクリエーションの集い	○	○	○	月 日()未定	小国町町民総合体育館・
庄内地区レクリエーションの集い	○	○	○	月 日()未定	未定

各競技会場図

〔山形県総合運動公園〕



A	NDソフトスタジアム	陸上競技
B	第2運動広場	フライングディスク競技
C	アリーナ	身体障がい者レクリエーション大会
D	屋内多目的コート	フライングディスク競技雨天時の会場
E	サブアリーナ	卓球競技（一般卓球競技）
	アリーナA1会議室	卓球競技（STT競技）

※以下の競技の会場図省略

山形市総合スポーツセンター 山形市落合1番地	水泳競技
	アーチェリー競技（弓道場）
山形市総合福祉センター 山形市城西町2丁目2-22	ボッチャ競技
上山市体育文化センター 上山市けやきの森2-1	精神障がい者バレーボール大会

第21回山形県障がい者スポーツ大会陸上競技実施要領

1 日 時 令和4年6月4日(土)

受 付 8時45分(NDソフトスタジアム正面玄関)

競技開始 9時30分(NDソフトスタジアム)

競技終了 12時00分

【注意】受付では、「安全管理及び感染防止のための体調管理報告書・様式1」と、来場者全員の「感染防止のための体調管理報告書(個人用)・様式2」を提出いただき、検温と手指の消毒を実施する。

2 会 場

山形県総合運動公園 NDソフトスタジアム

天童市山王1-1 電話:023-655-5900

3 主 管(運営協力)

一般財団法人山形陸上競技協会 天童東村山陸上競技協会

4 競技規則

令和4年度(公財)日本パラスポーツ協会編「全国障害者スポーツ大会規則」、
(公財)日本陸上競技連盟競技規則及び大会申合せ事項による。

5 参加対象者

身体障がい者(肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がい)

知的障がい者

内部障がい者

【注意】今年度の大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各競技とも第22回全国障害者スポーツ大会の山形県選手団の選手を選考するための大会とします。そのため、参加申込書の「⑩全国障害者スポーツ大会参加希望調査の『します』」に○をつけた選手が参加対象となります。

6 競技方法

競技は、予選を行わず、各組1回の決勝により行う。

《競走競技》

(1) スタートは、1回制とし、一度の不正スタートでもその責任を有する競技者は、失格となる。

(2) 50m競走については、スタンディングスタートのみとする。また、スターティング・ブロックは使用することができない。

- (3) 100m・200m・400m競走(4×100mリレーを含む)においては、クラウチングスタートをしなくてもよく、また、スターティング・ブロックを使用しなくてもよい。ただし、スタンディングスタートの場合、スターティング・ブロックを使用することはできない。
- (4) 400mまでの競走及び4×100mリレーのセパレート・レーンにおいて、内側のレーンに入った場合は、失格とする。ただし、直線においては、他の競技者を妨害しない限り失格としない。
- (5) 800m競走は、第2コーナーの曲走路が終わるまでセパレート・レーンで行う。
- (6) 50m競走で使用する車いすは、日常生活用とする。
- (7) 車いすで100m以上の競走種目に出場する競技者は、ヘルメットを着用して競技しなければならない。
- (8) 車いすは、身体の一部であり、その接地面がスタートラインや左側のラインに触れてはならない。
- (9) 1500m競走は、オープンコースとする。
- (10) 知的部門の4×100mリレーは、男女混合とし、バトンパスはテークオーバーゾーン内で行う。
- (11) 聴覚障がい者(以下「聴覚」という)部門のスタートは、次のように行う。
 - ① 競技者全員が見えやすい位置とする。
 - ② 100m・200m競走については、いすに座った姿勢で、50m・800m・1500m競走については、立った姿勢でピストルを発射する。
 - ③ 「On your marks: オン・ユア・マークス」(意味: 位置について)でピストルを肩口に移動し、一方の手でブロックへの移動を促す。
(800m、1500m競走については同様の動作でスタートラインへの移動を促した上で、ピストルを保持した腕を地面と平行に前方に伸ばす)
 - ④ 「Set: セット」(意味: 用意)で、ピストルを保持した腕を地面と平行に前方に伸ばす。
 - ⑤ 上記の姿勢を保持したまま、ピストルを発射する。
- (12) 視覚障がい者(以下「視覚」という)部門の障がい区分24の50m競走は、音源走のみとし、使用する音源は、ハンドマイクに収納した音源、または、それに類似するものとする。
- (13) 障がい区分24の競技者で伴走を必要とする場合は、原則として参加者が伴走者を随伴すること。
- (14) 障がい区分24に属する競技者の50mを除く競走競技で認められた伴走者は、フィニッシュの際には競技者の斜め後ろに位置しなければならない。
- (15) 視覚部門の競走競技で、セパレート・レーンを使用する場合には、スタートラインを延長して、1人の競技者に1つ外のレーンを含む2レーンを割り当てる。(伴走者も2レーン分の中に入ること)延長するスタートラインは、ラインと同

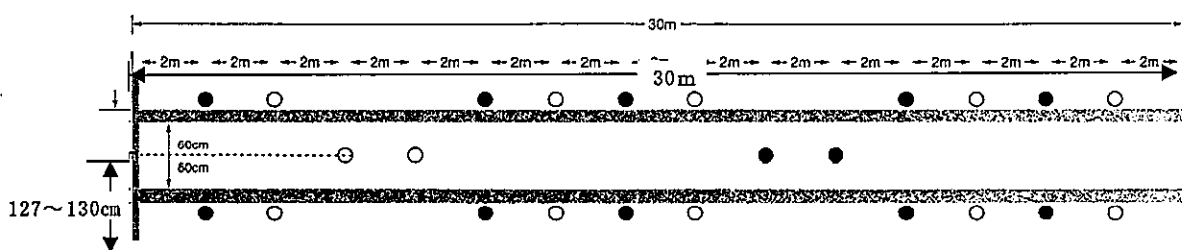
じ幅で同系色の粘着テープ等を使用する。

- (16) 障がい区分24に属する競技者は、競技エリア（トラックの走路）で光を通さないアイマスクまたはアイシェード（以下、アイマスクなど）を装着しなければならない。
- (17) 競走競技は、50mと100mの両方に申し込むことはできない。

《スラローム》

- (1) 白色の旗門は前進、赤色の旗門は後進によって通過しなければならない。
- (2) スタートラインより6m地点の前進周回旗門と18m地点の後進周回旗門の通過方法は、次のとおりとする。
 - ・ 1本目の旗門を右回り（左回り）で1周した後、2本目の旗門を左回り（右回り）で1周し通過すること。
- (3) 旗門を倒した場合、1本につき所要時間に5秒を加算する。ただし、倒した旗門に再び触れた場合は、違反としない。
- (4) 通過の方法を間違えたままフィニッシュした場合は、失格とする。ただし、フィニッシュラインに到達するまでならばやり直すことができる。その場合の反則や所要時間は、すべての所要時間に含まれる。
- (5) スタートとフィニッシュは、競走競技と同様に扱う。
- (6) スタートから5分を経過した場合は、失格とし競技を終了する。

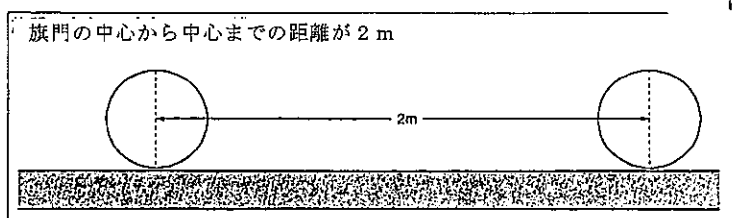
〈スラロームの障害物および旗門の位置〉



○ 前進旗門 ● 後進旗門



- ① 左右どちらから進入してもよいが、2本目は1本目とは逆回りすること。（後進の場合も同じ）
- ② 定められた通過方法により、旗門間を3回通過しなければならない。



《跳躍競技》

- (1) 走高跳を除き、各競技者は、3回までの試技が許される。
- (2) 視覚部門の走高跳は、助走してもしなくてもよいが、片足で踏み切らなければならない。
- (3) 立幅跳の踏切りは、両足同時に踏切るものとする。
- (4) 踏切線と砂場の距離は、次のとおりとし、走幅跳の競技者は、申込書にどちらの踏切線を使うかを記載しなければならない。ただし、視覚部門の走幅跳は、1 mのみとする。
 - ① 立幅跳 0.3m
 - ② 走幅跳 1 m 2 m
- (5) 視覚部門の走幅跳の踏切板の幅は、日本陸上競技連盟競技規則によるが、長さ1 mとする。
- (6) 視覚部門の障がい区分24に属する競技者は、競技エリア(助走路及び砂場)で光を通さないアイマスクまたは、アイシェード(以下、アイマスクなど)を装着しなければならない。
- (7) 視覚部門の走幅跳のみ、助走方向や踏切地点を知らせるために、声や音源による援助は認められる。
- (8) 視覚部門の立幅跳では、介助者が競技者の身体に触れて方向の確認を援助することは認められるが、跳躍方向から声や手ばたきで方向を示すことは認められない。
- (9) 跳躍競技は、立幅跳と走幅跳両方に申し込むことはできない。

《投てき競技》

- (1) 各競技者は、3回までの試技が許される。

なお、車いす使用者は、原則として、3回連続して投げるものとする。車いす使用者以外の競技者の投てきにおいても、運営上3回連続して投げる場合がある。
- (2) 投てき物の重量・規格等は、別表のとおりとする。
- (3) 車いすのシートの高さは、クッションを含めて75 cm以下とする。
- (4) 車いす及び電動車いす使用者の投てきは、次のように行わなければならない。
 - ① 助走することなく、臀部がシートに着いた姿勢から投げ始めなければならない。そのために、競技役員(補助員を含む)が車いすを支持してもよい。
 - ② 試技が完全に終了するまでは、臀部がシートから離れてはならない。
 - ③ 車いすを固定する場合は、地面との接地面がサークル及びやり投げ助走路スターティングラインの内側から出てはならない。
- (5) ジャベリックスローは、やり投の規則に準じて行う。
- (6) ソフトボール投は、やり投の規則に準じて行うが、投げ方は自由である。

- (7) 視覚部門の障がい区分24に属する競技者は、競技エリア（助走路及びサークル）で光を通さないアイマスクまたは、アイシェード（以下、アイマスクなど）を装着しなければならない。
- (8) 視覚部門の競技者の投てきに対する介助者の援助は次のとおり認める。
- ① サークルを使用する種目：試技前にサークル内に入り方向確認をすること
（確認後はサークルから出なければならない）
 - ② 助走路を使用する種目：助走路での方向確認や音源による助走の援助をすること
（審判の妨げにならない位置に限る）
- (9) 視覚部門の投てき競技では、投てき方向を知らせるために試技に入る前に限り、声や音源による援助は認められる。援助が必要な場合は審判員に申し出ること。その際の援助は競技役員（審判員など）が行うこととする。
- 【注意】アイマスクを外すことができるのは、審判員などが認めたときだけであり、無断で外す（アイマスクなどを顔から離したりめくったりする行為を含む）ことは認められない。審判員などが意図的に外したと認めた場合は、失格とすることがある。
- (10) 車いす使用者の投てき競技において、車いすや椅子を固定するために競技役員等が支持することは、助力とはみなされない。
- (11) 投てき競技は、障がい区分8を除き、ソフトボール投とジャベリックスローの両方に申し込むことはできない。

7 助 力

介助者による競技中の助力行為は認められない。助力を受けた競技者は失格とする。

8 招 集

- (1) 招集所は、陸上競技場第1ゲート付近（グラウンド100mスタート付近）に設ける。
- (2) 招集は、開始時刻表に記載された競技時刻の、フィールド競技は30分前、トラック競技は15分前までに点呼を受け完了する。
- (3) 点呼を受けた競技者は、招集所に待機し係員の誘導により競技場に移動する。
- (4) 招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権したものとみなし、出場できない。

9 2種目同時出場について

- (1) 2種目同時出場する場合において、1種目目の競技終了時刻から2種目目招集完了時刻までが、50分以内の競技者は、「2種目同時出場届」を提出することができる。以上の手続きにより、1種目目に出場する種目の招集時に、2

種目目の招集も受けたことになり、1種目目終了後、直接2種目目の競技地点に移動することができる。

(2) 提出場所等

- ① 提出場所：招集所（第1ゲート付近）
- ② 提出時刻：最初に提出する種目の招集時刻までに
- ③ 提出部数：1部（提出の用紙は受付で配布しています）

(3) 次の種目への移動は、各自の責任で行うこと。

10 競技の服装等

(1) 競技にあたっては、競技に適した服装を着用し、ゼッケンは、主催者が交付したものを、競技服装の上衣の胸部及び背部に付けること。

車いす使用競技者は、車いすの見えやすい位置に取り付けてもよい。

(2) 競技に使用するスパイクピンの長さは、9mm以下、走高跳・ソフトボール投・ジャベリックスローは12mm以下とする。

(3) 1500m競走に出場する選手で、靴底の厚さの上限が25mm以上のシューズを使用する選手は、招集時に必ず申し出ることとし、スタート前に審判員がチェックする。

11 表彰

当日表彰は行いませんが、帰宅時に受付にて記録証を配付する（後日郵送はしない）。

12 出場申込み方法

陸上競技に出場を希望する競技者は、下記「競技種目及び競技順」に示されている競技種目のうちから出場種目（2種目）を選び、出場申込書（様式1-1）と参加申込み一覧（様式3）により、令和4年5月9日（月）必着で申し込むこと。郵送またはメールでの申込みのみ受け付け、FAXでの申込みは、一切受け付けない。

競技種目及び競技順

トラック競技 9:30~12:00

- | | |
|---------|----------|
| ① スラローム | ⑤ 400m |
| ② 50m | ⑥ 100m |
| ③ 200m | ⑦ 1,500m |
| ④ 800m | |

フィールド競技

《投てき》 9:30~12:00

- ① ジャベリックスロー
- ② 砲丸投
- ③ ビーンバック投
- ④ ソフトボール投

《跳躍》 10:00~12:00

- ① 立幅跳
- ② 走幅跳
- ③ 走高跳

別表 《砲丸の重量一覧》

		男 子		女 子	
障がい区分 (番号)		1部	2部	1部	2部
肢1	1	4 kg	2.721 kg	2.721 kg	2.721 kg
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
肢2	12	2.721 kg	2.721 kg	2.721 kg	2.721 kg
	13	4 kg	2.721 kg	2.721 kg	2.721 kg
	14				
	15				
肢3	19	2.721 kg	2.721 kg	2.721 kg	2.721 kg
	20				
	21				
	22				
視	24	4 kg	2.721 kg	2.721 kg	2.721 kg
	25				
聴	26	4 kg	2.721 kg	2.721 kg	2.721 kg

《規格等》

種目（障がい区分）	性別	重量・規格等	備考
ソフトボール投 （該当する区分すべて）	男女	日本ソフトボール協会公認 「協会3号ボール（ゴム球）」	投げ方自由
ビーンバッグ投 （該当する区分すべて）	男女	12cm×12cmの布または適当なものの袋に、よく乾燥した大豆等を入れたもの 重量150g	投げ方自由 （足のせ蹴り出し可）
ジャベリックスロー （該当する区分すべて）	男女	ターボジャブ 長さ70cm 重さ300g	投げ方は やり投に準じる

13 新型コロナウイルス感染症予防のための留意事項

- (1) 選手は、競技以外の時は、マスクを常時着用する。引率、介助者等は、常時マスクを着用する。
- (2) マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手洗いする。
- (3) トイレの使用は、蓋をしてから水を流す。洗面所には水性石鹸が備え付けてあるので、30秒以上手洗いし、持参したマイタオルで水分を拭きとる。
- (4) あらゆる場面で、密集状態を避けて2mの間隔をとる。不可能な場合でも1mは距離を保つ（更衣室、選手控所、招集所、競技場、トイレ等）。
- (5) 応援は、声を出さずに拍手のみ。握手やハイタッチはしない。
- (6) 飲み物は、個人専用とし、飲み残しは洗面所等に捨てる。
- (7) ゴミ袋は、各自持参し、ごみは持ち帰る（ゴミ袋の入口をしっかりと縛る）。
- (8) 大会後2週間以内に新型コロナウイルスを発症した場合は、主催者に対して速やかに、濃厚接触者の有無等についても報告する。

（山形県障がい者スポーツ協会 電話023-686-4084）

- (9) 「感染防止のための体調管理報告書」については、個人情報の保護に留意し、大会1か月後に責任をもって廃棄します。

なお、当日体調がすぐれない方の入場は、お断りする。

(10) 消毒用アルコール設置場所

受付、選手控所、招集所、投てき競技控所、本部等

第21回山形県障がい者スポーツ大会水泳競技実施要領

1 日 時 令和4年5月22日(日)

受付開始	8時30分	(屋内プール正面入口)
ウォームアップ	8時45分	
監督会議	9時00分	
競技開始	9時30分	
競技終了	11時30分	

【注意】受付では、「安全管理及び感染防止のための体調管理報告書・様式1」と、来場者全員の「感染防止のための体調管理報告書(個人用)・様式2」を提出していただき、検温と手指の消毒を実施する。

2 会 場

山形市総合スポーツセンター 屋内プール
山形市落合町1 電話：023-625-2288(代)

3 主 管(運営協力)

山形市水泳連盟

4 競技規則

令和4年度(公財)日本パラスポーツ協会編「全国障害者スポーツ大会競技規則」、
(公財)日本水泳連盟競泳競技規則及び大会申合せ事項による。

5 参加対象者

身体障がい者(肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がい)
知的障がい者

【注意】今年度の大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各競技とも第22回全国障害者スポーツ大会の山形県選手団の選手を選考するための大会とします。参加申込書の「⑭全国障害者スポーツ大会参加希望調査の『します』」に○をつけた選手が参加対象となります。

6 競技方法

(1) 選手紹介

競技前の選手紹介の際は、椅子から立って(車いす使用者及び立つことが不自由な選手は座ったまま片手を上げて)紹介を受けること。

(2) スタートについて

- ① 自由形、平泳ぎ、バタフライのスタートは、台上、台の横からの飛び込み、または水中スタートを選択できる。
- ② 自由形、平泳ぎ、バタフライの水中スタートは、少なくとも片手でスターティンググリップを含むプールの壁をつかんだ状態からスタートしなければならない。身体的理由により壁をつかめない場合は、水面上の身体の一部がプールの壁についていればよい。また、審判長の判断により安全な用具の使用も認められる。
- ③ 背泳ぎのスタートにおいて身体的理由により両方の手でスターティンググリップをつかめない競技者は、少なくとも片手でスターティンググリップを含むプールの壁をつかみ壁側を向いた状態からスタートしなければならない。壁をつかめない場合は、水面上の身体の一部がプールの壁についていればよい。また、審判長の判断により安全な用具の使用も認められる。
- ④ 身体的理由により壁をつかむことができず、かつ、身体の一部を壁につけることができない場合には、スタートの合図がなされるまで足をプールの壁につけて保持してもらってもよい。ただし、スタートの際に競技者を支えている者は、競技者に勢いを与えてはならず、その場合フォルススタートとなる。
- ⑤ 次の障がい区分の競技者は、スタートの際、必要であれば競技役員または許可された者が、身体を支えるだけのために補助をしてもよい。この場合、競技者を支えている者は、スタートの勢いを与えてはならない。

肢体部門 1：多肢切断、片上肢完全・片下肢完全、両上肢不完全・両下肢不完全（障がい区分 1 1）

肢体部門 2：第 7 頸髄まで残存（障がい区分 1 3）

肢体部門 3：四肢麻痺（車いす常用）、上肢に著しい不随意運動を伴う走不能、片側障がいで片上肢機能全廃（障がい区分 1 7、1 9）

肢体部門 4：浮具使用（障がい区分 2 2）

- ⑥ 聴覚障がい者のスタートは、出発合図員は、背泳ぎではスタート側の延長線上、また、飛び込みのスタートでは、全競技者から見やすい位置に移動して行い、言葉とジェスチャーを併用して合図する。（手話通訳は一切合図しない）

(3) 競 技

- ① 義肢、装具、足ひれや手につけるパドルなどの使用は認めない。
- ② 障がい区分 2 3 の競技者は、競技中に光を通さないゴーグルを装着し、競技終了まで外してはならない。ゴーグルは招集所において競技役員が確認する。
- ③ 障がい区分 2 3 の競技者及び同等の障がい重複する競技者のゴールとターンでは、競技役員または許可された者が安全な棒などを使って身体をたたいて合図（タッピング）しなければならない。障がい区分 2 4 の競技者には行うことができる。
- ④ 自由形、背泳ぎのスタート及び折り返し後の 15 m を除いて、1 ストロークサイクルに 1 回、泳者の体の一部が水面上に出ることとする。

- ⑤ 身体障がいによりやむを得ないと認められた場合には、各泳法の規則を緩和することができる。
- ⑥ 自由形種目に限り、プールの底に立つことは失格にならないが歩くことは許されない。競技中にレーンロープを引っ張ってはならない。

(4) 介 助

介助については、原則として競技場への入場を許可された者が行う。なお、介助者として入場を希望する者は、参加申込み時に申し込み、競技役員の指示により入場する。

① 競技規則上可能な介助

ア) スタート介助 (入退水介助含む)

- ・身体的理由により壁をつかむことができず、かつ、身体の一部を壁につけることができない競技者
- ・障がい区分 11・13・17・19・22

イ) タッピング (ターン、ゴール時の合図)・障がい区分 23・24

② 競技規則以外で可能な介助

ア) 入退水介助 ・障がい区分 14・15・16

③ 競技規則以外で可能な同伴

- ア) 情緒不安定・障がい区分 26 及び同等の障がい重複する競技者
(他の競技者に迷惑をかける場合に限る)
- イ) 種目の指示・障がい区分 26 及び同等の障がい重複する競技者
(泳ぐ種目を理解できない場合に限る)

(5) 服 装

- ① スイミングキャップを着用すること。
- ② 水着はFINA、承認水着でなくてもよいが、形状 (体を覆う範囲) 等は、次のとおりとする。
 - ア) 男子は、へそを超えず、膝までとする。
 - イ) 女子は、肩から膝までとする。ただし、首、肩を覆うことはできない (セパレートの水着も可)。
- ③ 水着の重ね着は、禁止とし、着用できる水着は、1枚とする。ただし、インナー用ショーツ (サポーター) 女性用インナーパットは認める。

(6) 浮具使用について

肢体4の障がい区分22は浮力を助けるものは認められているが、安全のために特別なものを使用する場合は、競技開始前に審判長の許可を得ておく必要がある。

浮具とは、浮力を補助するためのスイミングヘルパーやアームヘルパーなどをいう。

7 誘 導

会場内での誘導は、競技役員又は競技補助員が行う。なお、許可を受けた介助者がつく場合は、競技役員の指示に従う。

8 計 時

計時は、手動とする。

9 出発合図

出発合図は、電子音装置またはピストルを使用する。

10 招 集

- (1) 招集は、水泳競技会場内招集所で行う。
- (2) 招集は、3レース前までに完了する。
- (3) 3レース前までに招集しなかった選手は、棄権とみなし出場できない。
- (4) 前レースの終了時刻から次レースの招集完了時刻まで10分以内の選手については、当該選手の代理者がその旨を招集所に申し出、代行することができる。

11 表 彰

当日表彰は行わないが、帰宅時に受付にて記録証を配付する(後日郵送はしない)。

12 競技種目及び競技順

別表のとおり競技を行うので、参加申し込み時に参考にすること。ただし、編成上やむを得ず競技順を変更することがある。

13 その他注意事項

- (1) 事故防止には十分注意すること。
- (2) 競技会場におけるコーチ及び介助者の指示、応援等を禁止する。
- (3) 場内の秩序については、競技役員の指示に従うこと。
- (4) 貴重品については、各自責任を持って管理すること。
- (5) 更衣室とプールサイド以外では水着、裸足のまま行動しないこと。
- (6) 競技会場への飲食物の持ち込みを禁止する。更衣室と選手待機所では水分補給は認めるが、それ以外の飲食については禁止する。
- (7) 選手の休憩は、指定された場所を利用すること。
- (8) 写真撮影をする場合は事前に大会事務局へ申請し、受付で許可証をもらうこと。

14 出場申込み方法

水泳競技で、全国障害者スポーツ大会に出場を希望する競技者は、別表「競技種目及び競技順」に示されている競技種目のうちから出場種目(2種目)を選び、出場申

込書（様式1-2）と参加申込み一覧（様式3）により、令和4年4月25日（月）必着で申し込むこと。郵送またはメールでの申込みのみ受け付け、FAXでの申込みは一切受け付けない。

15 新型コロナウイルス感染症予防のための留意事項

- (1) 今年度は無観客大会とする。選手・引率・介助者のみの入館を許可する。
- (2) 選手は、競技以外の時はマスクを常時着用する。引率・介助者等は常時マスクを着用する（選手は、選手紹介の前にマスクを外し、脱衣籠に入れる）。
- (3) トイレ使用は、蓋をしてから水を流す。洗面所には水性石鹼が備え付けてあるので、30秒以上手洗いをし、持参したマイタオルで水分を拭きとる。
- (4) あらゆる場面で、密集状態を避けて2mの間隔をとる。不可能な場合でも1mの距離は保つ（更衣室、選手控所、招集所、トイレ等）。
- (5) 応援は、声を出さずに拍手のみ。握手やハイタッチはしない。
- (6) 飲み物は、個人専用とし、飲み残しは洗面所等に捨てる。
- (7) ごみ袋は各自持参し、ごみは持ち帰る。（ごみ袋の口をしっかりと縛る）
- (8) 大会後2週間以内に新型コロナウイルスを発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等についても報告する。
（山形県障がい者スポーツ協会 023-686-4084）
- (9) 「感染防止のための体調管理報告書」については、個人情報の保護に留意し、大会1か月後に責任を持って廃棄します。
- (10) 消毒用アルコールの設置場所
受付、本部、招集所、更衣室、選手控所

別表 競技種目及び競技順

- | | |
|------------|------------|
| ① 25m自由形 | ⑤ 50m自由形 |
| ② 25m平泳ぎ | ⑥ 50m平泳ぎ |
| ③ 25m背泳ぎ | ⑦ 50m背泳ぎ |
| ④ 25mバタフライ | ⑧ 50mバタフライ |

第21回山形県障がい者スポーツ大会アーチェリー競技実施要領

- 1 日 時 令和4年5月29日(日)
受 付 9時00分
競 技 開 始 9時40分
競 技 終 了 12時00分

【注意】受付では、「安全管理及び感染防止のための体調管理報告書・様式1」と、来場者全員の「感染防止のための体調管理報告書(個人用)・様式2」を提出していただき、検温と手指の消毒を実施する。

- 2 会 場
山形市総合スポーツセンター 弓道場(遠的場)
山形市落合町1 電話：023-625-2288(代)

- 3 主 管(運営協力)
山形市アーチェリー協会
山形県身体障害者アーチェリー協会

- 4 競技規則
令和4年度(公財)日本パラスポーツ協会編「全国障害者スポーツ大会競技規則」、(公社)全日本アーチェリー連盟競技規則及び大会申合せ事項による。

- 5 参加対象者
身体障がい者(肢体不自由、聴覚障がい、内部障がい)
【注意】今年度の大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各競技とも第22回全国障害者スポーツ大会の山形県選手団の選手を選考するための大会とする。参加申込書の「⑭全国障害者スポーツ大参加希望調査の『します』」に○をつけた選手が参加対象となる。

- 6 標的競技
(1) 競技種目は男女とも次のとおりとする。
① 50m・30mラウンド
② 30mダブルラウンド
(2) 行射時間は、各距離から1エンド3射(2分)で36射ずつ行射する。
また、プラクティスは、2分フリー2回とする。
(3) 部門は、リカーブ部門とコンパウンド部門とする。

7 競技方法

(1) 標 的

リカーブ部門は、直径80cm的、コンパウンド部門は、6リング的を使用する。

(2) 時 間

ストップウォッチで時間を管理進行し、行射開始にホイッスルと白旗で、行射終了30秒前に計時係が黄色旗を上げ時間を知らせる。

(3) リカーブ部門の用具

障がい区分1（第8頸髄まで残存）及び障がい区分3（上肢障がい）の競技者は、リカーブ部門において、審判長の承認を得て手に補助具（リリースエイド等の発射装置）を使用することができる。

また、障がい区分1及び障がい区分3以外の競技者で上肢にも障がいがあり、補助具を使用しないと行射できない競技者も、審判長の承認を得れば使用することができる。

(4) 行 射

① 車いす、あるいは椅子使用の競技者は、シューティングライン後方に少なくとも車いすの1輪または椅子の1脚を置いて行射しなければならない。

② 行射中は押手及び弓を車いすや椅子等で支えてはならない。

③ 椅子使用の競技者は、椅子の脚と競技者の足によって囲まれる地面との接触範囲は、幅60cm×80cmの広さを超えてはならない。

また、椅子は、背もたれ肘掛など体を支える構造があってはならない。

④ 車いすの競技者は、足やフットレストを地面につけてはならない。

(5) 立 順

① 立順は、Aの1立制とし、3射ごと採点、矢取りを行う。

② 2名または3名の競技者が同時に行射する場合、車いす、または椅子使用の競技者は、常にシューティングラインにとどまってもよい。その場合、弓を膝の上もしくはシューティングライン後方に置くことによって行射を終了したものとする。

(6) 得点記録

得点記録及び矢の回収は、競技運営主管団体が競技者からの委託を受けて行うものとする。

8 競技用具・服装

競技に必要な用具は、出場選手が各自用意する。

競技に当たっては、競技に適した服装を着用すること。

9 表 彰

表彰式は行わず、各部門の種目毎・男女別の3位までの賞状を、帰宅時に受付にて配付する。

10 出場申込方法

アーチェリーに出場を希望する競技者は、出場申込書(様式1-3)と参加申込み一覧(様式3)により令和4年5月2日(月)必着で申し込むこと。郵送またはメールでの申込みのみ受け付け、FAXでの申込みは、一切受け付けない。

11 その他

全国障害者スポーツ大会のアーチェリー競技に出場する選手は、グリーンバッジ(安全バッジ)を所持していることが望ましい。

12 新型コロナウイルス感染症予防のための留意事項

(1) 選手は、シューティング時以外は、原則的にマスクを着用する。介助者・コーチ等は常時マスクを着用する。

(2) 矢取り

○他人の矢に触れないこと。

○矢取りは射者が行い、自分で取りに行けない場合は、介助者または特定の代理人による矢取りを行う(マスクと手袋着用)。

(3) トイレ使用は蓋をしてから水を流す。石鹸で30秒以上手洗いをし、持参したタオルで水分を拭きとる。

(4) あらゆる場面で密集状態を避けて2mの間隔をとる。

(5) 応援は、声を出さず拍手のみ。握手やハイタッチはしない。

(6) 飲み物は、個人専用とし、飲み残しは洗面所等に捨てる。

(7) ごみ袋は各自持参し、ごみは持ち帰る。(ごみ袋の口をしっかりと縛る)

(8) 大会後2週間以内に新型コロナウイルスを発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等についても報告する。

(山形県障がい者スポーツ協会 023-686-4084)

(9) 「感染防止のための体調管理報告書」については、個人情報の保護に留意し、大会1か月後に責任を持って廃棄します。

なお、当日体調がすぐれない方の入場は、お断りする。

(10) 消毒用アルコール設置場所

受付、本部、選手控所

第21回山形県障がい者スポーツ大会卓球競技実施要領

- 1 日 時 令和4年5月21日(土)
- | | | |
|---------|--------|-------------|
| 受 付 | 9時00分 | (サブアリーナ入口前) |
| 競 技 開 始 | 9時30分 | |
| 競 技 終 了 | 12時30分 | |

【注意】受付では、「安全管理及び感染防止のための体調管理報告書・様式1」と、来場者全員の「感染防止のための体調管理報告書(個人用)・様式2」を提出していただき、検温と手指の消毒を実施する。

2 会 場

山形県総合運動公園 サブアリーナ・アリーナA1会議室
天童市山王1-1 電話：023-655-5900

3 主 管 (運営協力)

山形県卓球協会	山形県身体障害者卓球協会
天童クラブ	STT審判団

4 競技規則

令和4年度(公財)日本パラスポーツ協会編「全国障害者スポーツ大会競技規則」、(公財)日本卓球協会競技規則及び大会申合せ事項による。

5 参加対象者

身体障がい者(肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がい)
知的障がい者
精神障がい者

【注意】今年度の大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各競技とも第22回全国障害者スポーツ大会の山形県選手団の選手を選考するための大会とする。参加申込書の「⑰全国障害者スポーツ大会参加希望調査の『します』」に○をつけた選手が参加対象となる。

6 競技方法

- (1) 競技種目は、男女シングルの一般卓球とサウンドテーブルテニス(STT)とする。視覚障がい部門では、視力・視野を問わず、アイマスク装着の有無で、競技を区分する。アイマスクありはSTTに、アイマスクなしは、一般卓球に出場できる。
- (2) 部門は、肢体不自由(上肢・下肢・体幹・車いす・脳原生麻痺)、聴覚障がい、視覚障がい(一般卓球・STT)、知的障がい、精神障がいの10部門とする。
- (3) 試合は、部門毎予選リーグ・決勝トーナメント方式とし、原則として同一部門の選手でブロックを構成するものとする(各ブロック1位・2位が決勝トーナメントに進出する。)

- (4) 出場選手の少ない部門については、他部門の選手と合わせてブロックを構成することがある（1ブロック4名以内）。
- (5) 1部門の参加総数が17名以上の場合は、予選リーグを行わずトーナメント方式のみとする。ただし、1回戦の敗者同士は、親善試合を行う。
- (6) 1ゲームの勝敗は、11ポイントを先取した競技者を勝ちとする。ただし、両競技者の得点が10ポイントに達した後は、2ポイントの差をつけた競技者を勝ちとする。
- (7) 1マッチは5ゲームからなり、3ゲームを先取した競技者を勝ちとする。
- (8) サービスは、得点の合計が2ポイント増すごとに交替する。また、双方の得点が10ポイントになったときは、順序を変えず1ポイントごとにサービスを交替する。促進ルールは適用しない。

7 一般卓球の競技規則等

- (1) 肢体不自由者及び知的障がい者については、フリーハンド（ラケットを持っていない手の手首より先）がコートに触れても失点としない。ただし、コートを支えて打ったり、テーブルを動かしてはならない。
- (2) サービスについて
 - ① サーバーはフリーハンドの手のひらを開き、その上に掴むことなく自由に転がる状態でボールをのせ、静止させる。この状態からサービスは開始される。
 - ② 次にサーバーは、ボールに回転を与えることなく、ボールがフリーハンドの手のひらから離れたあと、打球される前になにもものにも触れずに落下するように、16cm以上ボールをほぼ垂直に投げ上げなければならない。
 - ③ サーバーは、ボールが落下する途中を打つものとし、そのボールが最初に自領コートに触れた後、レシーバーのコートに直接触れるように打球する。
 - ④ 身体的理由により審判長の承認を得、主審が相手方にサービスの仕方について変更を知らせた場合には、サービスの規定を緩和することができる。
また、知的障がいについても、主審が対戦者の不利にならないと認めた場合、サービスの規定を緩和することができる。
- (3) 車いす使用者が正しく出されたサービスをレシーブする際ボールが、①レシーバーのコートに触れた後、ネット方向に戻った場合、②レシーバーのコートに止まった場合、③レシーバーのコートに触れた後、どちらかのサイドラインを横切った場合は、ラリーはレットとなる。ただし、「レット」が宣告される前に打球した場合は、有効となる。
- (4) 知的障がいや精神障がい原因と認められる試合の中断があった場合、1つのマッチでの中断時間は最大10分間とする。また、速やかな試合進行のために、審判、監督、介助者等が競技者に進行を促す言葉をかけたり競技者に触れることができる。

8 サウンドテーブルテニス（略称STT）の競技規則等

- (1) STTに出場する選手は、アイマスクまたはアイシェードを装着すること。
- (2) サービス
 - ① サーバーは、主審の「プレー」の宣告の10秒以内に、次の条件を満たし

た後で、レシーバーと主審・副審に聞こえるように「いきます」といわなければならない。

- ② 審判員が明らかに離れていると見えるように、フリーハンドをボールから離す。
 - ③ ラケットをボールから10 cm以上離し、ラケットの動きを止める。
 - ④ レシーバーは5秒以内にサーバーと主審・副審に聞こえるように「はい」と言わなければならない。
 - ⑤ サーバーはレシーバーが「はい」と返事をした後、5秒以内にサービスをしなければならない。
- (3) 「打つ」とは、競技者の握ったラケット（グリップを含む）及びラケットハンドでボールに触れることとする。グリップ及びラケットハンドで打球した場合、打球音がすれば有効であるが、打球音がしない時には、ホールディングとし無効とする。

9 競技用具

ラケットについては、(公財)日本卓球協会が公認したものを使用しなければならないが、身体障がいにより、使用球の色以外の単一色のもので、手や腕に縛ることが許される。

(JTТАのマーク及び指定業者の刻印か、商標がなければならない)

10 服 装

競技にふさわしい服装で参加すること。背中には、氏名、市町村名または団体名の入ったゼッケンを各自用意し着用すること（縦15 cm、横25 cm程度／布の色は指定しない）。

11 表 彰

表彰式は行わず、部門毎の1～3位までの賞状を帰宅時に受付にて配付する。
なお、3位決定戦は行わない。

12 出場申込み方法

卓球競技に出場を希望する競技者は、別紙出場申込書(様式1-4)と参加申込み一覧(様式3)により、令和4年4月25日(月)必着で申し込むこと。郵送またはメールでの申込みのみ受け付け、FAXでの申込みは、一切受け付けない。

13 新型コロナウイルス感染症予防のための留意事項

- (1) 選手は競技以外の時は、マスクを常時着用する。引率、介助者等は常時マスクを着用する。
- (2) トイレの使用は、蓋をしてから水を流す。洗面所には水性石鹸が備え付けてあるので、30秒以上手洗いし、持参したマイタオルで水分を拭きとる。
- (3) あらゆる場面で密集状態を避けて2mの間隔をとる。不可能な場合でも1mの距離を保つ。コートサイドの椅子は、間隔をあけて配置するので、勝手に移動させない。

第21回山形県障がい者スポーツ大会フライングディスク競技実施要領

1 日 時	令和4年6月11日(土)
	受付開始 9時00分
	競技開始 9時40分
	競技終了 12時00分

【注意】受付では、「安全管理及び感染防止のための体調管理報告書・様式1」と、来場者全員の「感染防止のための体調管理報告書(個人用)・様式2」を提出していただき、検温と手指の消毒を実施する。

2 会 場

山形県総合運動公園 第2運動広場

天童市山王1-1 電話：023-655-5900

雨天時：屋内多目的コート

3 主 管 (運営協力)

山形県障がい者フライングディスク協会 山形県障害者スポーツ指導者協議会

4 競技規則

令和4年度(公財)日本パラスポーツ協会編「全国障害者スポーツ大会競技規則」、日本障害者フライングディスク連盟競技規則及び大会申合せ事項による。

5 参加対象者

身体障がい者(肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がい)

知的障がい者

内部障がい者(ぼうこう又は直腸機能障がい)

【注意】今年度の大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各競技とも第22回全国障害者スポーツ大会の山形県選手団の選手を選考するための大会とする。参加申込書の「⑬全国障害者スポーツ大会参加希望調査の『します』」に○をつけた選手が参加対象となる。

6 競技種目

- (1) アキュラシー(ディスリート5、ディスリート7)
- (2) ディスタンス(座位、立位に分け男女別実施する)

7 競 技

- (1) 競技は、すべて競技役員の指示で進行する。

- (2) 投げ方は自由とする。
- (3) 競技に使用するディスクは、主催者で用意する。
- (4) 手、足、口等、身体のあらゆる部分によるスローイングを認める。ただし、スローイングの助けとなるどのような工夫もしてはならない。手指等の傷口を守るためにテープ等を使用する場合、審判長の許可を得なければならない。

なお、義手・義足等の使用は認めるが、ディスクの推進力、回転力を促進する機能のあるものは認めない。

《アキュラシー》

- ① 障がいによるクラス分け及び性別による区分けはしない。
- ② 試技順は、年齢の若い順とする。
- ③ 試技は、10投連続で行う。
- ④ プレーヤーが視覚障がい者の場合は、競技役員がアキュラシーゴール後方3mの距離から電子音によってアキュラシーゴール中心部の位置を知らせることができる。

また、投げる方向、通過・不通過の状況を知らせるための介助者をスローイングエリア内に1名を同行することができる。その際、伝えられるのは投げる方向、通過・不通過の状況だけで技術的な助言等を行ってはならない。度重なる介助者の違反については、退場を命ずることができる。

- ⑤ 試技の時間は、プレーヤーが1投目のディスクを受け取ってから5分とする。5分をこえた試技は無効となる。

《ディスタンス》

- ① 各組の組合せ編成は、年齢順により行う（原則1組8名まで。男女別、座位・立位別に行う）。
- ② 試技順は、年齢の若い順とする。
- ③ 1投のテストスロー（黄色のディスク）を行い、試技は、3投連続して行う。
- ④ 投げられたディスクの有効範囲は、競技フィールド前方180°とする。
- ⑤ 試技の時間は、プレーヤーが1投目のディスクを受け取ってから3分とする。3分をこえた試技は無効とする。
- ⑥ プレーヤーが視覚障がいの場合、投げる方向、ディスクの飛行状況を知らせるための介助者をスローイングエリア内に1名同行することができる。その際、伝えられるのは投げる方向、ディスクの飛行状況だけで、技術的な助言等を行ってはならない。

8 服 装

ゼッケンは主催者が交付したものを競技服装の上衣の胸部及び背部に付けること。

mの距離を保つ。

(4) 飲み物は個人専用とし、飲み残しは洗面所や水飲み場に捨てる。

(5) ごみは各自持ち帰る。(ごみ袋の口をしっかりと縛る)

(6) プレーヤーの注意事項

○試合後には、手洗い及びうがいを実施する。

○可能な限りグローブを両手に着用する。

○プレー中には声を出さない。

(7) 競技役員の注意事項

○常時マスク着用する。(熱中症に注意)

○ディスクに触れるスタッフは、グローブをつける。

○競技用具の取扱い

・ストップウォッチ、計測備品・メジャーなど：1試合ごとに、使用前・使用後に可能な限り、アルコール消毒をする。

・ディスク：使用する前には、消毒を実施する。

・フィールドマーカー：使用後は、水洗いや消毒をする。

(8) 大会後2週間以内に新型コロナウイルスを発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者等についても報告する。

(山形県障がい者スポーツ協会 電話023-686-4084)

(9) 「感染防止のための体調管理報告書」については、個人情報の保護に留意し、大会1か月後に責任をもって廃棄します。

(10) 手指消毒用アルコールの設置場所

・受付 ・各サイト ・本部 ・競技役員席 ・救護所

・水飲み場 ・トイレ

第21回山形県障がい者スポーツ大会ボッチャ競技実施要領

1 日 時	令和4年5月15日(日)
受 付	9時00分
注意事項説明	9時30分
競技開始	10時00分
競技終了	12時00分

【注意】受付では、「安全管理及び感染防止のための体調管理報告書・様式1」と来場者全員の「感染防止のための体調管理報告書(個人用)・様式2」を提出いただき、検温と手指の消毒を実施する。

2 会 場

山形市総合福祉センター 体育館

山形市城西町2丁目2-2

電話 023-645-9234

3 主 管 (運営協力)

山形県障害者スポーツ指導者協議会

4 競技規則

令和4年度(公財)日本パラスポーツ協会編「全国障害者スポーツ大会競技規則」及び大会申合せ事項による。

5 参加対象者

身体障がい者(肢体不自由)

ボッチャの障がい区分は、すべて投球時の姿勢を基準とする。

(1) 車いす利用者・座位者

① 四肢麻痺者・片麻痺者等、車いすまたは椅子座位で競技をする選手。

② 投球はできるが車いすの方向を変えたり、移動したりすることが機能的に困難な選手。

③ 投球することが困難で、ランプを使用して競技する選手。

※②及び③の選手は、1選手に1人競技アシスタントが認められる。

(競技アシスタントは、移動すること、方向を変えること、投球することに対して補助するものであって、選手の意思を離れて競技に介入することは許されない。)

(2) 立位者

立位で競技するもの。競技においては、日常的に車いすを使用しているものでも、投球時に立っているかどうかで判断される。

【注意】今年度の大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各競技とも第22回全国障害者スポーツ大会の山形県選手団の選手を選考するための大会とする。参加申込書の「㊤全国障害者スポーツ大会参加希望調査の『します』」に○をつけた選手が参加対象となる。

6 競技手順

1 試合 2 エンドとし、競技は以下のような手順で進められる。

(1) 競技の準備

コイントスにて投球順序(使用するボールの色)を決定する。

(2) ボールの準備

選手は、自分が使用するボールを持って、試合に臨むことができる。

(3) 投球位置への配置

選手は、審判の誘導を受けながら投球位置(赤ボールを投球するサイドは3番、青ボールを投球するサイドは4番のスローイングボックス)に配置される。

なお、コーチは、エンドライン側のコート外で待機する。

(4) 投球練習

試合を始める前に、6球のボールと1球のジャックボールを使って、2分以内に投球練習をすることができる。

(5) 試合の宣告

審判はあいさつを促す。次にジャックボールを赤の選手に手渡し、コート外に出ると「ジャックプリーズ」というコールをもって試合の開始を宣告する。

(6) ジャックボールの投球

赤チームの選手は、コート内の任意の個所にジャックボールを投球する。この際、コートを区切るラインに触れたり越えたり、Vラインに触れた位置で停止したり、越えなかったりした場合はデッドボールとなり、ジャックボールの投球権は相手チームに移る。

(7) 第1球目の投球

ジャックボールが首尾よくコート内の任意の個所に投球できた場合、ジャックボールを投球した選手がそのままボールの第1球を投球する。このとき、第1球がコートを区切るラインに触れたり越えてしまったりした場合は、同じ選手がボールをコート内に投球することができるまで投球する。

(8) 第2球目の投球

ジャックボールを投げたチームがボールの第1球を投球できたら、相手チームの選手が相手ボールの1球目を投球する。このとき、相手チームの第1球目がコートを区切るラインに触れたり越えてしまったりした場合は、同じ選手がボールをコート内に投球することができるまで投球する。

(9) 第3球目以降の投球

両者のボールが投球されたら、ジャックボールに対してより遠い位置に配置されたボ

ールを投球した選手が投球する。

ジャックボールに対して遠近の配置が入れ替わったとき、投球する選手も入れ替わる。これは、投球すべき手持ちのボールがすべて投げ終わるまで行われる。

(10) 各選手の持ち時間

ジャックボールを含めた各選手の投球時間の合計は、1エンド当たりそれぞれ6分ずつとする。

(11) 点数の計算、エンドの終了

審判は試合の点数を宣言し、エンドの終了を宣告する。審判に促された後、ランプを使用する選手の競技アシスタントはコート内を見ることができる。ただし、試合の結果に介入することはできない。

(12) エンドとエンドの間の扱い(1分)

次のエンドの準備が行われる。コーチや競技アシスタントは、次のエンドのためにボールを回収し、コーチは、選手に必要な助言を与えることができる。

(13) 次エンドの実施

次エンドの実施は、ジャックボールを青チームの選手に手渡し、以後は第1エンドと同じ手順で行われる。

(14) 勝敗

競技は2エンドマッチで行われ、第2エンド終了時の総得点の高いチームが勝利となる。

(15) 同点時の対応

① (タイブレイク) 2エンド終了時に同点だった場合は、コート中央のクロスにジャックボールを配置し、1球ずつ投球してジャックボールにより近いボールを投球した選手を勝者とする(ファイナルショット制度)。

② 投球順序は、タイブレイクエンド開始前にコイントスで決められ、先に投球する選手のジャックボールが使用される。

(16) 競技の終了

審判は、選手から承諾サインを得る。承諾サインを得たのち選手はコートから退出する。

7 違反行為

(1) ラインを踏む、もしくはボックスの外に足や補装具が接地した状態で投球する。

⇒投球したボールは無効となり、リトラクション(ボール除去)となる。

(2) 審判の指示がある前に投球する。または指示がない選手が投球する。

⇒投球したボールは無効となり、リトラクションとなる。

(3) ランプを使用する選手の競技アシスタントが、試合中にコートを見たり、競技に介入したりする所作を審判が認めたとき。

⇒投球したボールは無効となり、リトラクションとなる。

8 試合形式

立位と座位に分けて4人1組のリーグ戦を行い、リーグ1位同士でトーナメントを行う。

9 競技用具

(1) ボール

- ① ボールは、大会主催者で準備するが、個人所有のボールを使用しても構わない。
- ② 主催者が準備するボールを使用する場合は、グローブをはめて競技することになる。グローブは個人で準備する（グローブ：素手でボールに触れないために使用する薄手のナイロン製の手袋。例：使い捨てプラスチック製手袋）。
- ③ 個人所有のボールを使用する場合は、招集時にボール検査を大会主催者が実施する。ただし、基準を満たしていない場合は、主催者が用意するボールを使用して競技しなければならない。
- ④ ボールの表面は革製か人工皮革で、大きさは以下のとおりとなる。

重量：275 g ± 12 g 周長：270 mm ± 8 mm

(2) 投球補助具（ランプ）

- ① ランプは、競技者が準備したものを使用する。準備できない場合は、大会主催者が準備したものを使用する。ただし、事前の貸し出しは行わないので、2分間の練習時間内で使用方法を会得すること。
- ② ランプは、付属品、延長部、基本部分を含めた最大最長の状態にして横に倒したときに、2.5 m × 1 mのエリア内に収まるような寸法でなければならない。
- ③ ランプは、ボールを投げることができず、競技アシスタントを要して投球する区分の座位の選手が使用する用具である。投球する際にはボールに触れたり、押し下りして自分自身でモーションを起こさなければならない。
- ④ ランプの先は、接地しているかどうかに関わらず、スローイングラインより前に出てはならない。接地していなければ、ボックスサイドラインを越えてもよい。

10 服装

- (1) 競技にふさわしい服装で参加すること。立位の選手、コーチ、競技アシスタントは上履きに履き替えて競技場に入ること。
- (2) 選手と競技アシスタントは、縦15 cm、横25 cm程度の白布に選手名を記載したゼッケンを見やすいところに付けること。

11 招集

招集は、前の試合が開始されるまでに済ませること。ただし、第1試合の選手は、注意事項説明が終了したら直ちに招集を受けること。

12 表彰

立位・座位別の3位までの選手に対して、帰る際に受付で賞状を配付する（後日郵送はしない）。

13 出場申込み方法

ボッチャに出場を希望する選手は、出場申込書（様式1-6）と参加申込み一覧（様式3）を令和4年4月18日（月）必着で申し込むこと。郵送またはメールでの申込みのみ受け付け、FAXでの申込みは、一切受け付けない。

なお、障がい区分に該当しない選手は、大会に出場できません。その場合は、主催者から大会前に連絡する。

14 新型コロナウイルス感染症予防のための留意事項

- (1) 選手は競技以外の時は、マスクを常時着用する。コーチ、競技アシスタントは常時マスクを着用する。
- (2) トイレの使用は、蓋をしてから水を流す。洗面所には水性石鹸が備え付けてあるので30秒以上手洗いをし、持参したマイタオルで水分を拭きとる。
- (3) あらゆる場面で密集を避けて2mの間隔をとる。不可能な場合でも1mの距離を保つ。
- (4) 飲み物は個人専用とし、飲み残しは洗面所等に捨てる。
- (5) ごみは各自持ち帰る（ごみ袋の入口をしっかりと縛る）。
- (6) 競技が終了した選手から帰路につく。
- (7) 競技中でも1時間に1回、5分間の換気を実施する。
- (8) 大会後2週間以内に新型コロナウイルスを発症した場合は、主催者に対して速やかに、濃厚接触者等についても報告する。
（山形県障がい者スポーツ協会 電話 023-686-4084）
- (9) 「感染防止のための体調管理報告書」については、個人情報の保護に留意し、大会1か月後に責任をもって廃棄します。
- (10) 競技役員の注意事項
 - 常時マスクを着用する。
 - ボールに触れる審判員はグローブをはめる。
 - 1試合ごとの器具の消毒
 - ・ランプ ・パドル ・計測器具 ・タイマー
 - ・ストップウォッチ ・得点板

障 がい 区 分

1 肢体不自由者の障がい区分

- (1) 肢体不自由の7級が重複して6級に認定されている場合は、7級対象部位のいずれか一肢の障がいとして区分する(7級の認定部位が両下肢の場合は片下肢、右上下肢の場合は片上肢または片下肢、両下肢及び片上肢の場合は片下肢または片上肢として区分する)。
- (2) 多肢切断や両上肢障がいなど、複数の部位の切断や機能障がいがある場合は、3肢以上(多肢)や両上肢がそれぞれ6級以上の認定を受けていなければならない(左上肢が7級で右上肢が6級などの場合は、片上肢障がいとして区分する)。
- (3) 指および手のひらの切断は手部切断として、足部の切断は下腿切断として扱う。
- (4) 片側の手部切断も、両側の手部切断も「手部切断」として区分する。
- (5) 関節離断は、上位の部分の切断として扱う(肘関節離断の場合は、上腕切断となる)。
- (6) 完全とは、上肢または下肢の3大関節(肩・肘・手関節または、股・膝・足関節)の全ての機能障がいのあるものをいう。下肢の場合は長下肢装具なしでは体重を支えきれないものをいう。
- (7) サリドマイドや骨形成不全などにより、前腕は正常でも上腕に障がいがあるような場合には、競技によっては、最も上位の障がい部位(上腕)の切断として扱っても、機能障がいとして扱ってもよい。
- (8) 「車いす常用」とは、日常生活で常に車いすを使用していることをいう。また、「車いす使用」とは、大会の競技場面のみに車いすを使用していることをいう。
- (9) 切断または機能障がいのある競技者が競技で車いすを使用する場合は、「脳原性麻痺以外で車いす常用または使用」の「その他の車いす」の障がい区分とする。
- (10) 脊髄損傷や脳原性麻痺以外で上下肢に障がいのある車いす常用(筋ジストロフィー症など)の区分は、残存機能や座位バランスなどに留意しながら、脊髄損傷の機能レベルの区分に応じて行う。
- (11) 脳原性麻痺とは、脳性麻痺、脳血管疾患や脳外傷等による脳に起因して生じる健康状態の総称をいう。ただし、脊髄小脳変性症の場合は、実際の障がい状況に応じて他の区分となることもある。
- (12) 走可能とは、両足が地面を離れ、身体に空間を跳んでいる時間があり、かつ、両足がともに地面に接している時間がない運動のことである。

なお、走可能と判断する場合、歩行可能で転倒せず、早歩きできる競技者を対象とする。

- ### 2 視覚障がいの視力は、「矯正後の良い方の視力」で判定する。視力を算出する際、光覚弁、手動弁は視力0、指数弁は視力0.01とする。また矯正後の良い方の視力が0.02以上の場合は、視野障がいの有無に関わらず、その他の視覚障がいへ区分される。

- ### 3 内部障がいは、ぼうこう又は直腸機能障がいのみを対象とする。

- ### 4 個人競技の陸上競技、水泳、卓球(精神障がいを除く)では、年齢(4月1日現在)を次の区分に分けて競技するものとする。

身体障がい者	1部：39歳以下	2部：40歳以上	
知的障がい者	少年の部：19歳以下	青年の部：20歳～35歳	壮年の部：36歳以上
精神障がい者	区分なし		

〔障がい区分の解説〕

■肢体不自由1

		障がい区分名	解説			
切断または機能障がい	立位	切断	手部	片側および両側の手部切断		
			片前腕	手関節の離断を含む片側の前腕の切断者		
			片上腕	肘関節の離断を含む片側の上腕の切断者		
			両前腕	両側手関節離断を含む両側の前腕の切断者		
			両上腕	両上腕の切断者		
			片前腕および片上腕	片前腕の切断および片上腕の切断者		
		機能障がい	片上肢不完全	片側の肩・肘・手関節のうち一または二関節に機能障がいがある者		
			片上肢完全	片側の肩・肘・手関節のすべてに機能障がいがある者		
			両上肢不完全	両側の肩・肘・手関節のうち一または二関節に機能障がいがある者		
			両上肢完全	両側の肩・肘・手関節のすべてに機能障がいがある者		
			下肢	切断	片下腿	片足部の切断を含む片下腿の切断者
					片大腿	膝関節の離断を含む片大腿の切断者
		両下腿			両側の下腿の切断者	
		両大腿			両側の大腿の切断者	
	機能障がい	片下肢不完全		片側の股・膝・足関節のうち一または二関節に機能障がいがある者		
		片下肢完全		片側の股・膝・足関節のすべてに機能障がいがある者		
		両下肢不完全		両側の股・膝・足関節のうち一または二関節に機能障がいがあり、両側にそれぞれある者		
		両下肢完全		両側の股・膝・足関節のすべてに機能障がいがある者		
	上下肢	切断	片上肢および片下肢	片上肢の切断および片下肢の切断者		
			多肢切断	三肢以上の切断者		
		機能障がい	片上肢不完全および片下肢不完全	片上肢不完全および片下肢不完全の者		
			片上肢完全および片下肢完全	片上肢完全および片下肢完全の者		
	体幹		体幹	頸部・胸部・腹部および腰部(脊柱)のみに変形がある者(脊椎カリエス等による体幹の障がい該当する)【注1】		

【注1】四肢の機能障がいを伴う場合は体幹の機能障がいがあってもこの区分には該当しない。

■肢体不自由2

脊髄損傷等	陸上競技・ボッチャ	脳原性麻痺以外で、車いす常用または使用	第6 頸髄まで残存	肩関節周囲の筋力はほぼ正常な四肢麻痺者(肘関節の屈曲と手関節の背屈は正常)
			第7 頸髄まで残存	肩関節周囲と肘関節周囲の筋力がほぼ正常な四肢麻痺者(肩関節と肘関節、手関節の背屈と掌屈が正常だが、物がにぎれない)
			第8 頸髄まで残存	肩関節周囲と肘関節周囲と手関節周囲の筋力はほぼ正常で指の曲げ伸ばしも可能な四肢麻痺者(把持能力はあるが、指を強く開いたり閉じたりできない)
			下肢麻痺で座位バランスなし	【注2】
			下肢麻痺で座位バランスあり	
			その他の車いす(陸上競技)	脳原性麻痺や脊髄麻痺以外の車いす使用者(例:両下肢切断のため車いすを使用し競技する者)
			多肢切断(ボッチャ)	三肢以上を切断し、車いすや椅子に座った姿勢で競技する者
水泳	脊髄損傷等(脊髄損傷や脊髄腫瘍等脊髄疾患、ポリオ、ギランバレーなどの疾患により対麻痺や四肢麻痺相当である場合はこの区分になる。切断や奇形、脳性麻痺による場合はそれぞれの該当区分の適用になる。)	第7 頸髄まで残存	肩関節周囲と肘関節周囲の筋力がほぼ正常な四肢麻痺者(肩関節と肘関節、手関節の背屈と掌屈が正常だが、物がにぎれない)	
		第8 頸髄まで残存	肩関節周囲と肘関節周囲と手関節周囲の筋力はほぼ正常で指の曲げ伸ばしも可能な四肢麻痺者(把持能力はあるが、指を強く開いたり閉じたりできない)	
		下肢麻痺で座位バランスなし	【注2】	
		下肢麻痺で座位バランスあり		座位バランスのある脊髄損傷者等【注3】

【注2】「座位バランス」の判定は、「へそ」の位置の知覚レベルの有無が一つの判断基準となり、背もたれのない座位の状態でも両手の支えなく座ることができる場合は「座位バランスあり」と判断する。

【注3】(水泳)下肢の切断や欠損等による車いす使用者は、「座位バランスあり」に区分せず切断の区分を適用すること。

■肢体不自由3

脳原性麻痺（脳性麻痺、脳血管疾患、脳外傷等）	陸上競技・ボッチャ	車いす	四肢麻痺で車いす使用	四肢に著しい可動域制限や協調運動障がいがある者で両上肢駆動による車いす使用者
			けって移動	両上肢の障がいがあるため両下肢または片下肢で車いすを駆動させる者
			片上下肢で車いす使用	片側の upper limb と下肢で車いすを操作する者
			上肢で車いす使用	上肢による車いす使用者【注4】
	立位	その他走不能（陸上競技）	下肢装具の使用の有無に関わらず、走ることのできない者	
		その他走不能（ボッチャ）	杖や下肢装具等の使用の有無に関わらず、走ることが不可能な者	
		上肢に不随意運動を伴う走可能	目的動作に障害のある上肢協調運動障がいがあるが、杖・歩行器を用いずに走ることが可能な者	
		その他走可能	【注5】	
	水泳		四肢麻痺（車いす常用）	四肢に著しい可動域制限や麻痺等の障がいがある者で上肢駆動による車いす使用者
			上肢に著しい不随意運動を伴う走不能	意図的な動作に障がいがある等の上肢の協調運動障がいがあり、走ることが不可能な者
			両下肢麻痺	両下肢に著しい可動域制限や麻痺等の障害がある者（車いすや杖、松葉杖などを使用していることが多い）
			上肢に軽度の不随意運動を伴う走不能	上肢の協調運動障がいがあるが軽度な者で、走ることが不可能な者
			片側障がい片上肢機能全廃	片側障がい片側上肢でもスロー動作も走ることが両方不可能な者
			その他片側障がい走不能	片側障がい片側上肢でもスロー動作が可能だが、走ることが不可能な者
			その他走可能	上肢の協調運動障がいがあるが軽度で走ることが可能な者や、片側障がい走可能な者等、上記区分に該当しない者
卓球	車いす	車いす使用	車いすを使用して競技をするすべての脳原性麻痺者	
		杖または松葉杖使用	杖や松葉杖などを使用して競技をする者	
	立位	上肢に不随意運動あり	意図的な動作に障がいがある等の上肢の協調運動障がいがある者	
		上肢に不随意運動なし	上肢の協調運動障がいがない立位者	
その他		片側障がい	片側の上下肢に可動域制限や麻痺等の障がいがあるが、杖や松葉杖等を使用して競技をしない者	
		電動車いす常用（陸上・ボッチャ）	四肢体幹機能障がいにより日常生活で常に電動車いすを使用している者	
		浮具使用（水泳）	重度の四肢体幹機能障がいのある者で、浮具を使用する者	

【注4】 ハンドリムを瞬時に把持したり、ハンドリムをプッシュする際に肘関節を完全に伸展させることができる者はこの区分に該当する。

【注5】 「上肢に不随意運動を伴う走可能」に該当しない杖・歩行器を用いずに走ることが可能な者すべてがこの区分に該当する。

■視覚障がい

視覚障がい	視力0から0.01まで	【注6】【注7】
	その他の視覚障がい	

【注6】 視力は、「矯正後の良い方の視力」で判定する。視力を算出する際、光覚弁、手動弁は視力0、指数弁は視力0.01とする。

【注7】 矯正後の良い方の視力が、0.02以上の場合、視野障がいの有無に関わらず、その他の視覚障がいへ区分される。

■聴覚・平衡機能障がい、音声・言語・そしゃく機能障がい

聴覚・平衡機能障がい 音声・言語・そしゃく機能障がい	聴覚障がい	区分しない
-------------------------------	-------	-------

■知的障がい

知的障がい	知的障がい	区分しない
-------	-------	-------

■内部障がい

内部障がい	ぼうこう又は直腸機能障がい	脊髄損傷等で合併したぼうこう又は直腸機能障がい者は含まない
-------	---------------	-------------------------------

■精神障がい

精神障がい	精神障がい	区分しない
-------	-------	-------

山形県障がい者スポーツ大会 競技・種目

◎男女別・年齢区分なし △男女混合・年齢区分なし ▲男女別・年齢区分なし

1 陸上競技

区分番号	障がい区分	競走					跳躍			投てき					
		※2 500m	1000m	2000m	4000m	8000m	15000m	スラローム	※1 4×100mリレー	走高跳	立幅跳	走幅跳	砲丸投	ソフトボール投	ビーバック投
1 上肢	1	◎	◎							◎	◎	◎	◎		
	2	◎	◎							◎	◎	◎	◎		
	3	◎	◎							◎	◎	◎	◎		
	4	◎	◎							◎	◎	◎	◎		
	5	◎	◎							◎	◎	◎	◎		
	6	◎	◎							◎	◎	◎	◎		
	7	◎	◎							◎	◎	◎	◎		
	8	◎	◎							◎	◎	◎	◎		
2 下肢	9	◎	◎												
	10	◎	◎												
	11	◎	◎												
	12	◎	◎												
	13	◎	◎												
	14	◎	◎												
	15	◎	◎												
3 体幹	16	◎	◎												
	17	◎	◎												
	18	◎	◎												
	19	◎	◎												
	20	◎	◎												
	21	◎	◎												
4 感覚障がい※5	22	◎	◎												
	23	◎	◎												
	24	◎	◎												
	25	◎	◎												
	26	◎	◎												
知的障がい	27	◎	◎												
	28	◎	◎												

※1 4×100mリレーは男女混合とする。 ※2 50m競走で使用する車いすは日常生活用とする。

※3 体幹とは頸部・胸部・腹部および腰部(脊柱)のみに変形がある者(脊椎カリエス等による体幹の障がい)が該当する。

※4 複数の障がい区分にわたり1つの◎がついている場合は、一つの区分として競走をおこない、順位を決定する。

※5 視力は「矯正後の良い方の視力」で判定する。

※6 障がい区分24は光を通さないアイマスクまたはアインシェードを装着する。

【注】競走競技50mと100m、跳躍競技は立幅跳と走幅跳、投てき競技は砲丸投、ソフトボール投とジャベリックスローの両方に申し込むことはできない。

2 水 泳

◎男女別・年齢区分別 ○男女別・1部 ●男女別・2部 △男女混合・年齢区分なし

	区分番号	障がい区分	自由形		背泳ぎ		平泳ぎ		バタフライ		※1	※1
			25m	50m	25m	50m	25m	50m	25m	50m	フリーリレー	メドレーリレー
1 肢体不自由	上肢	1 手部切断	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
		2 片前腕切断または、片上肢不完全	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
		3 片上腕切断または、片上肢完全	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
		4 両前腕切断または、両上肢不完全	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
		5 両上腕切断または、両上肢完全 片前腕および片上腕切断	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
	下肢	6 片下腿切断または、片下肢不完全	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
		7 片大腿切断または、片下肢完全	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
		8 両下腿切断または、両下肢不完全	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
		9 両大腿切断または、両下肢完全 片下腿および片大腿切断	◎	◎	●	○	●	○	◎			
	上下肢	10 片上肢切断および片下肢切断 片上肢不完全および片下肢不完全	◎	◎	●	○	●	○	◎			
		11 多肢切断または、片上肢完全および片下肢完全 両上肢不完全および両下肢不完全	◎	◎	●	○	●	○	◎			
	体幹	12 体幹	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
2 す以脳常外用で性車麻痺	13 第7頸髄まで残存	◎	◎	◎		◎						
	14 第8頸髄まで残存	◎	◎	●	○	●	○	●	○			
	15 下肢麻痺で座位バランスなし	◎	◎	●	○	●	○	●	○			
	16 下肢麻痺で座位バランスあり	◎	◎	●	○	●	○	●	○			
3 疾(患脳、性脳麻痺、外傷、痺等脳)血管	17 四肢麻痺(車いす常用)または、 上肢に著しい不随意運動を伴う走不能	◎	◎	◎		◎						
	18 両下肢麻痺または、 上肢に軽度の不随意運動を伴う走不能	◎	◎	●	○	●	○	●	○			
	19 片側障がい片上肢機能全廃	◎	◎	●	○	●	○	◎				
	20 その他の片側障がい走不能	◎	◎	●	○	●	○	●	○			
	21 その他走可能	◎	◎	●	○	●	○	●	○			
4	22 浮具使用	◎	◎	◎		◎						
視覚障がい ※2	23 視力0から0.01まで ※3	◎	◎	●	○	●	○	●	○			
	24 その他の視覚障がい	◎	◎	●	○	●	○	●	○			
聴覚・平衡機能障がい 音声・言語・そしやく機能障がい	25 聴覚障がい	◎	◎	●	○	●	○	●	○			
知的障がい	26 知的障がい	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	

※1. フリーリレー、メドレーリレーは男女混合とする。

※2. 視力は、「矯正後の良い方の視力」で判定する。

※3. 障がい区分23は光を通さないゴーグルを装着する。

●男女別

3 アーチェリー

	区分番号	障がい区分	リカーブ		コンパウンド		
			50m・30m	30m・30m	50m・30m	30m・30m	
肢体不自由	1	第8頸髄まで残存	●	●	●	●	
		その他の車いす	●	●			
	3	上肢障がい	●	●			
		4	下肢障がい(椅子・車いす使用を含む)	●	●		
		5	体幹	●	●		
	6	脳原性麻痺(脳性麻痺、脳血管疾患、脳外傷等)	●	●	●	●	
7	聴覚障がい	●	●				
8	ぼうこう又は直腸機能障がい	●	●				

※「第8頸髄まで残存」には、「第6頸髄まで残存」および「第7頸髄まで残存」は出場できるものとする。

4 卓球

◎男女別、年齢区分別 ●男女別

	区分番号	障がい区分	卓球	STT	
肢体不自由	1	上肢障がい	1 片上肢障がい	◎	
			2 両上肢障がい	◎	
		下肢障がい	3 片下腿切断または、片下肢不完全	◎	
			4 片大腿切断または、両下腿切断 片下肢完全または、両下肢不完全	◎	
			5 片下腿および片大腿切断 両大腿切断または、両下肢完全	◎	
			6 体幹	◎	
	2	脳原性麻痺以外 で車いす常用、使用	7 第8頸髄まで残存 ※1	◎	
			8 座位バランスなし	◎	
			9 その他の車いす	◎	
	3	脳原性麻痺 (脳性麻痺、脳血管疾患、 脳外傷等)	10 車いす使用	◎	
			11 杖または、松葉杖使用	◎	
			12 上肢に不随意運動あり	◎	
			13 上肢に不随意運動なし	◎	
			14 片側障がい	◎	
	視覚障がい ※2		15 アイマスク・アイシェードあり ※3		◎
		16 アイマスク・アイシェードなし	◎		
聴覚・平衡機能障がい、 音声・言語・そしゃく機能障がい		17 聴覚障がい	◎		
知的障がい		18 知的障がい	◎		
精神障がい		19 精神障がい	●		

※1 「第8頸髄まで残存」には、「第6頸髄まで残存」および「第7頸髄まで残存」は出場できるものとする。

※2 視力・視野の程度に関わらず、アイマスクまたはアイシェードの有無で出場競技を分ける。

※3 障がい区分15は、各自で用意した光を通さないアイマスクまたはアイシェードを装着する。

5 フライングディスク

◇区分なし ●男女別

	アキュラシー		ディスタンス	
	ディスク5	ディスク7	座位	立位
肢体不自由				
視覚障がい				
聴覚障がい	◇	◇	●	●
知的障がい				
内部障がい (ぼうこう又は直腸機能障がい)				

6 ボッチャ

△ 男女区別・年齢区分なし

			区分 番号	障がい区分	競技スタイル	
					立位	座位
肢体不自由	1	切断・機能障がい	1	多肢切断または、両下肢完全で立位	△	
	2	脳原性麻痺以外で、車いす常用、使用	2	第6頸椎まで残存		△
			3	第7頸椎まで残存		△
			4	第8頸椎まで残存		△
			5	多肢切断		△
	3	脳原性麻痺 (脳性麻痺、脳血管疾患、脳外傷等)	6	四肢麻痺で車いす常用または、使用		△
			7	けって移動		△
			8	片上下肢で車いす常用または、使用		△
	4		10	電動車いす常用		△
				9	その他走不能	△

※座位とは、車いす及び椅子に座った競技スタイルを言う。

※座位で競技する選手(区分2～8及び10)で、移動したり、方向を変えたりすることが機能的に困難な者及びランプ使用者について、選手1名につき1名の競技アシスタントを認める。

※立位で競技する選手については、安全上の配慮から、投球時以外はボックス内に椅子を準備し、座位にて待機してもよい。

7 バレーボール : 精神障がい

男女混合とする。また試合中は、少なくとも1名以上の女性プレーヤーが出場していなければならない。

連絡員による安全確認の実施について

- 1 「安全管理及び感染防止のための体調管理報告書」の提出について
大会に参加される皆様の安全を確保するため、安全体制を整え大会を開催いたします。そのために「安全確認及び感染防止のための体調管理報告書・様式1」と「感染防止のための体調管理報告書・様式2」を受付に提出してください。
- 2 連絡員の選任及び緊急連絡先について
 - (1) 当日、常に連絡が取れる方で、参加者の把握が可能な方を連絡員として選任し、連絡員携帯電話番号は必ず記入してください。
 - (2) 個人参加で連絡員がいない場合は、本人の携帯電話番号の他、家族等の緊急連絡先(携帯電話番号)も記入してください。
- 3 「安全管理及び感染防止のための体調管理報告書」について
 - (1) 上記の書類には、来場するすべての方(選手・引率・介助)の氏名を記入してください。
 - (2) 当日の安全確認のために、上記の書類のコピーを持参してください。
- 4 安全確認の流れ (各競技会場の受付の所に危機管理本部を設置)
 - (1) 1回目：受付時
受付に提出した「安全管理及び感染防止のための体調管理報告書」により、体調チェックと検温、人員確認の後、確認者印を押印し連絡員に報告書1部を返却する。
 - (2) 2回目：帰宅時
危機管理本部で人員を確認後、検温し、「安全管理及び感染防止のための体調管理報告書」に確認者の押印を受け、賞状や記録証を受付で受け取ってから帰路につく。
 - (3) 大会途中で帰る方がいる場合
連絡員が危機管理本部へ報告してください。
 - (4) 留意事項
 - ① 書類の提出や受取は必ず連絡員本人が直接行ってください。
 - ② 個人参加の方は、本人又は引率の方が上記手続きを行ってください。
- 5 その他
 - (1) 連絡員には荒天時などによる大会中止の際も連絡しますので、必ず電話に出られる方を記入してください。
 - (2) 急病、けが、行方不明等(心配があるものを含む)の緊急事態が発生した場合は、状況の重大・軽微を自己判断せず、すぐに大会会場の危機管理本部か、下記緊急連絡担当者(鈴木)まで連絡してください。
 - (3) 危機管理本部は、当日各会場出入口に設置します。
 - (4) 参加者が多い団体で「安全管理及び感染防止のための体調管理報告書」の用紙1枚に氏名を記入しきれない場合は、用紙をコピーして使用してください。
- 6 大会事務局： 山形県障がい者スポーツ協会
 - ・〒990-2231 山形市大字大森385
 - ・TEL 023-686-4084
 - ・FAX 023-686-3723
 - ・Email info@yamagata-adapted.jp大会当日の緊急連絡担当者：山形県障がい者スポーツ協会 鈴木政彦
携帯電話番号 090-1370-1935

第21回山形県障がい者スポーツ大会申込み注意事項（各競技共通）

1 参加申込みについて

(1) 今年度の大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各競技とも第22回全国障害者スポーツ大会の山形県選手団の選手を選考するための大会とします。参加申込書の「全国大会参加希望調査の『します』」に○をつけた選手が参加対象となります。

※ただし、「します」に○をつけ各競技で1位になっても、必ず全国大会の選手に選考されるとは限りません。

(2) 個人競技参加申込書の取りまとめは、下記の点に注意し正確に行ってください。

① 特別支援学校、中学校及び高等学校在校生は、在籍する学校から一括して大会事務局に申し込んでください。

② グループホーム、福祉ホームなどの入居者、身体障がい者施設及び知的障がい者施設への通所または入所者は、当該施設から大会事務局に申し込んでください。

③ 在宅の障がい者で、障がい福祉団体、障がい者スポーツ団体に加入している場合は、当該団体を通して大会事務局に申し込んでください。

④ 上記以外の者は、市町村福祉担当課を通して大会事務局に申し込んでください。

⑤ 各参加者とも、同日開催競技を除くいずれかの2競技に出場できます。

2競技に出場する方は、競技ごとに指定された個人競技参加申込書にそれぞれ記入し、競技ごと定められた申込み締切日を厳守して提出ください。

⑥ 郵送、メールともに個人競技参加申込書に「○○競技参加申込一覧（様式3）」を競技種目ごとに添付してください。

(3) 申込み方法は下記のとおりです。

① 大会参加申込みは、郵送またはメールでの提出分のみ受け付けます。FAXでの申込みは、一切受け付けませんのでご注意ください。

また、締切日まで大会事務局に必ず届くよう申し込みください。

② 各競技とも、締切日を過ぎての選手追加・変更及び新規申し込みは一切受け付けません。

(4) 個人競技参加申込書には、緊急時に必ず通じる携帯電話等の連絡先（電話番号）を明記してください。 ※大会当日の荒天時や、その他緊急時の連絡等にも使用します。

(5) 第21回山形県障がい者スポーツ大会実施要綱と各競技の実施要領をしっかりと確認し、発送前に間違いや記入漏れがないか確認のうえ、申込みください。

(6) 個人競技参加申込書等のデータを希望の方は、当協会ホームページからダウンロードしてください。

2 安全管理について

大会に参加される方の安全を確保するため、安全管理体制を整え大会を実施いたします。別添資料の「連絡員による安全確認の実施について」をお読みいただき、安心安全な大会の運営にご協力をお願いします。

3 プログラムについて

各競技のプログラムは、大会5日前をめどに参加申込みのあったチーム等に郵送いたしますので、受付時刻に遅れることのないように確認してください。

4 連絡先・大会事務局

山形県障がい者スポーツ協会

〒990-2231 山形市大字大森385番地

TEL：023-686-4084

Fax：023-686-3723

Email：info@yamagata-adapted.jp

ホームページ <http://www.yamagata-adapted.jp/>

令和4年第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」
山形県選手団選手・役員選考方針（個人競技）

1 選考方針について

第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」に出場する個人競技の山形県選手選考にあたっては、多くのメダル獲得を目指すとともに、障がい者スポーツのより一層の振興に資することを目的として、以下の基準に基づき実施する。

2 出場資格

下記のいずれにも該当する者

- (1) 令和4年4月1日現在、13歳以上の身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者。
身体障がい者：身体障害者手帳の交付を受けた者（内部障がいは、ぼうこう又は直腸機能障がい）。
知的障がい者：療育手帳の交付を受けた者。あるいは、その取得の対象に準ずる障がいのある者。
精神障がい者：精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者。あるいは、その取得の対象に準ずる障がいのある者。
- (2) 本県に現住所を有する者。ただし県内の学校に通学している者及び県内の施設に入所・通所している者も出場できるものとする。
- (3) 団体競技に出場しない者。

3 選手選考方針

- (1) 原則として全国障害者スポーツ大会（以下、「全国大会」という。）の派遣選手選考会として開催された「第21回山形県障がい者スポーツ大会」（以下、「県大会」という。）の成績に基づき、これまでの全国大会の記録と比較して上位入賞が期待できる者を優先して選考する。
- (2) 選考にあたっては、障がい区分、性別、年齢のバランス等も考慮する。
- (3) 全国大会未経験者の出場に配慮する。
- (4) 3年連続して全国大会に出場した者は、原則として選考の対象としない。（今年度から令和6年度までは該当者なし）
ただし、3年連続して全国大会に出場した者のうち、県大会の記録が過去の全国大会の最高記録を上回った者、全国大会において3年連続してメダルを獲得した実績がある者、前回の全国大会で金メダルを獲得した者など、全国大会で好成績を獲得する見込みが高い者は、選考の対象とする。

4 選手選考について

- (1) 上記出場資格及び選考基準の条件を満たした者を、選考委員会で審議し選手を決定し、県に推薦する。
- (2) 県は、選手選考委員会からの推薦に基づき、第22回全国障害者スポーツ大会に派遣する選手を決定する。

5 役員選考について

- (1) 役員構成は、出場選手の障がいの程度及び選手の構成を考慮して選出する。
- (2) 障がい者スポーツの理解者を増やしていくため、障がい者スポーツ等の関係者に限らず、（公財）山形県スポーツ協会の競技団体等の指導者からも選出する。
- (3) 選考にあたっては、障がい者スポーツに対する理解の深さ、競技の指導経験、全国大会出場に向けた練習会・合宿・会議等への参加の可否などを考慮する。
- (4) 前3項を踏まえて山形県障がい者スポーツ協会長が役員を推薦し、その推薦に基づき県が派遣役員を決定する。

会場地市町別競技

いちご^{い5天}会とちぎ大会

第22回 全国障害者スポーツ大会

